

進路は、選んで終わりじゃない

先日、学年懇談会には、お忙しい中ご来校いただき、ありがとうございました。
懇談会でもお話ししましたが、子どもたちは、いよいよ自分のこれからについて考える時期を迎えます。

人生を80年とすると、その時間はおよそ4000週間です。
こうして数字にしてみると、思っている以上に限られた時間なのだと感じます。その4000週間の中には、自分で選べることもあれば、思いがけない出会いや出来事、いわば「運命」のようなものも重なっていきます。だからこそ、過ぎていく毎日の中で、ときどき立ち止まり、「自分は、これからどうしたいのだろう」「どんな場所で過ごしたいのだろう」「どんな自分でありたいのだろう」

と、自分自身に問かけける時間は、とても大切なのだと思います。とはいえ、自分の心の声を聞くことは、意外と難しいものです。

友達はどうするのか。

周りからどう見られるのか。

どちらを選んだ方が得なのか。

失敗しないのはどちらなのか。

考え始めれば、いろいろな声が聞こえてきます。もちろん、周りの人の意見を聞くことも大切です。ただ、最後には一度そうした「ノイズ」から離れて、自分自身と向き合う時間も必要なのだと思います。今回のコース選択、そしてこれからの進路選択は、お子様にとって、自分の人生についてこれまで以上に深く考える大きな機会でもあります。

「一番よい学校はどこか」という答えを探すというよりも、

「自分は、どんな環境に身を置きたいのか」

「どんな場所なら、自分なりに納得して過ごせそうか」

そんなことを考えながら、ベストではなくても、「今の自分にとってのベター」を見つけていけたらと思っています。学校でも、子どもたちと進路について対話を重ねています。

その中で、私が大切にしたいと思っているのが、「人生の主人公は、自分しかいない」ということです。

誰かが代わりに学校へ通うことはできません。誰かが代わりにその先の人生を生きることもできません。だからこそ、最後は自分で考え、自分で決めてほしい。そして、決めた後には、その選択を「よい選択だった」と思えるように、自分から関わっていったほしいと思っています。

進路について考える中で、ふと思い出す言葉があります。

一生懸命に取り組むと、「知恵」が出る。

中途半端に取り組むと、「愚痴」が出る。

いい加減に取り組むと、「言い訳」が出る。

少し厳しく聞こえる言葉かもしれませんが、けれど、これは誰かを「一生懸命」「中途半端」「いい加減」と評価するための言葉ではないと思っています。むしろ、「今の自分は、どんな姿勢で向き合っているだろう」と、自分自身を振り返るための言葉です。

本気で向き合っていると、思い通りにいかないことに出会ったときも、「どうしたらできるだろう」と考えます。限られた条件の中でも何とかしようと工夫するからこそ、そこに知恵が生まれます。反対に、どこか他人事のままだと、うまくいかない理由を周りに求めたくなったり、「仕方がなかった」と自分を納得させなくなったりすることもあります。進路も、きっと同じなのだと思います。どこを選ぶかだけで、その後のすべてが決まるわけではありません。選んだ場所で、自分がどう過ごすのか。うまくいかないときに、どう考えるのか。その時間に、どれだけ自分自身が当事者として関わっていくのか。そうした姿勢によって、選んだ道の意味は少しずつ変わっていくのだと思います。だから私は、「正解の進路を選んでほしい」とは、あまり思っていません。それよりも、自分で考え、自分で選び、その選択を自分の力で少しずつ「よい選択」にしていったほしいと思っています。

もちろん、まだ迷っていて構いません。むしろ、迷うことも大切な時間なのだと思います。

「本当にこれでいいのかな」

「こっちの方が自分には合っているのかな」

そうやって行ったり来たりしながら考えることそのものが、自分の未来と向き合っている証でもあります。

お子様にとっては、初めてとも言える大きな進路選択です。

ご家庭でも、すぐに答えを出すことより、

「あなたは、どうしたい？」と、一緒に考える時間を大切にいただけたらと思います。

私たちも、答えを決めてあげるのではなく、子どもたちが自分なりの答えにたどり着くまで、一緒に考えていきたいと思っています。

人生の主人公は、自分しかいません。

だからこそ、今回のコース選択、そしてこれからの進路選択が、誰かに決めてもらったものではなく、「自分で考えて、自分で選んだ」と、自分自身で言えるものになればと願っています。